

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別研究		授業形態/必・選	講義	選択
	作詞 前期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験18年 TVアニメ「トリアージュ」エンディング主題歌「この素晴らしい世界に祝福を」など数多く作詞を担当。 その他、数多くの作編曲、レコーディング、書籍執筆など幅広く活躍中。 著者「やっと見つけた!あなたの才能を100%活かせる作詞作曲の本」がある。					
授業概要						
メロディと歌詞を融合させた時の歌詞の大切さを身に付ける。 作詞のストーリー、アイデアの出し方など能力を向上させる。 決められた文字数(音符数)に対して自然な言葉を入れられる能力を向上させる。						
到達目標						
シンガーソングライターとしてだけでなく、作曲家の決まったメロディに対して作詞家として内容の濃い要約された言葉でアプローチできるスキルを身に付ける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	言葉が本来持つ力を引き出す ・メロディの高低差と喋り言葉のイントネーションを合わせることでキャッチーな歌詞になる事を理解する ・そうすることで喋りかけられているかのように言葉が耳から入って心に響く事を理解する					
【前期】 6～10回目	一度しかないチャンスはどう掴むか ・ライブでの演奏は1度きり、歌詞も一度しか聞いてもらえない事をしっかり認識する ・喋り言葉にない母音を歌詞に入れる事でリスナーに伝わりづらくなることを理解し作詞する					
【前期】 11～15回目	発注側になる事で普段思い付かない内容や言葉を出す ・レコード会社役(内容の依頼)、作詞家役に別れ発注と受注を学びシンガーソングライターとしてのスキルを上げる ・ワードを混ぜ合わす事により普段思いもしないような言葉が生まれ、思わぬ発見ができるということを理解し個々の引き出しを増やす					
【前期】 16～19回目	作詞は感覚ではなく、テクニックを身に付けて書き進める ・無駄の無い情景描写の書き方を学ぶことでAメロから引き込まれる歌詞を書けるようになる ・歌詞よりメロディが先にあるという条件を設け、音符数が限られている中で作詞する難しさと楽しさを学ぶ					
【前期】 20回目	「前期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	授業で習う方法やテクニックが全ての歌詞に当てはまるという理解をしないこと。 解らない部分は積極的に質問し、説明以上に興味を持った内容は授業後積極的に検索や視聴していく事が大切です。 各自メモを取り授業後に反復練習する事で楽器と同じように作詞もスキルアップしていきます。					
使用教科書	無し					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別研究		授業形態/必・選	講義	選択
	作詞 後期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験18年 TVアニメ「トリアージュ」エンディング主題歌「この素晴らしい世界に祝福を」など数多く作詞を担当。 その他、数多くの作編曲、レコーディング、書籍執筆など幅広く活躍中。 著者「やっと見つけた!あなたの才能を100%活かせる作詞作曲の本」がある。					
授業概要						
メロディと歌詞を融合させた時の歌詞の大切さを身に付ける。 作詞のストーリー、アイデアの出し方など能力を向上させる。 決められた文字数(音符数)に対して自然な言葉を入れられる能力を向上させる。						
到達目標						
シンガーソングライターとしてだけでなく、作曲家の決まったメロディに対して作詞家として内容の濃い要約された言葉でアプローチできるスキルを身に付ける。						
授業計画・内容						
【後期】 1～4回目	近い未来を見据えて当て込み譜に触れる ・実際のプロの現場で使われた当て込み譜を使い、2年～卒業後の仕事を視野に入れ作詞することで引き出しを増やしていく ・当て込み譜に触れ、実際の玉譜に書き込む事で言葉がはまりづらいことを理解し、興味を深める。					
【後期】 5～9回目	実戦ですぐに使える作詞テクニック① ・5文字を6文字に増やす方法やテクニックを学び理解し、当て込み譜に歌詞をつけ書くことの楽しさを改めて知る ・逆に5文字を4文字に減らし同じ意味の言葉を探すことでより沢山の言葉を歌詞に入れ込むことができる技術を取得する					
【後期】 10～14回目	実戦ですぐに使える作詞テクニック② ・1音符に2音の歌詞を入れることができる方法やテクニックを学び理解することで歌詞の幅が広がり自由度が増すことを認識する ・英語のLoveなど1音で発音出来てしまう言葉が日本語にも沢山あることを知ることで更に幅が広がる事を確認する ・当て込み譜一曲分(フルサイズ)の歌詞を書くことを目標とし、書き進める					
【後期】 15回目	「後期試験」					
【後期】 16～20回目	一人前の作詞家になるために ・当て込み譜一曲分(フルサイズ)の歌詞を書き、文字数やイントネーションなども含めきちんと書けるようになっているかを確認する ・実際に発売された楽曲と照らし合わせ自分の弱点と美点を理解し更にスキルを上げる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	授業で習う方法やテクニックが全ての歌詞に当てはまるという理解をしないこと。 解らない部分は積極的に質問し、説明以上に興味を持った内容は授業後積極的に検索や視聴していく事が大切です。 各自メモを取り授業後に反復練習する事で楽器と同じように作詞もスキルアップしていきます。					
使用教科書	無し					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別研究		授業形態/必・選	実習	選択
	DTMギター I 前期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経歴10年。専門学校にて音楽を学びその後サポートギタリストを開始する。 コロナ禍を機に作詞作曲編曲、トラックメイキングに力を入れ、 現在は自身のソロプロジェクトにて活動、アーティストに楽曲提供も行なっている。					
授業概要						
昨今のポピュラー音楽にて使用されているギターの音色をどのように演奏するか、またどのようなボイシングやリズムパターンをもってして弾かれているかの分析。 それらをギターを弾いた事がない学生に対してキーボードでの打ち込みに落とし込みやすいように理論的な説明。						
到達目標						
作曲する際に最初にギターを用いる、またキーボードを用いてもギターを弾く上での思考から始められる事。 ギターを作曲に用いる際のアイデア出しの精度の向上。 楽器を修練する事へのモチベーションを高めひいては音楽活動へのモチベーションの向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	CAGEDシステムを用いたコードの習得 ・5パターンのコードの押さえ方の把握。 ・ギターのコードボイシングの理解。					
【前期】 6～10回目	CAGEDシステムを用いたコードの習得 ・5パターンのコードの押さえ方の把握。 ・ギターのコードボイシングの理解。					
【前期】 11～15回目	Logicのピアノロールを用いたギター演奏のMIDIへの反映・ギターのコードボイシングをMIDIデータに起こす事によるピアノとの差異の確認。・リズムパターンを					
【前期】 16～19回目	Logicのピアノロールを用いたギター演奏のMIDIへの反映 ・ギターのコードボイシングをMIDIデータに起こす事によるピアノとの差異の確認。 ・リズムパターンをMIDIデータに起こす事によるピアノを含め、他リズムセクションとの差異の確認。					
【前期】 20回目	「前期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ギターという楽器を理解する事でまた違った角度でインスピレーションが降ってきます。自身に合ったスタイルの構築のヒントになるので楽しんでやっていきましょう！					
使用教科書	オリジナルで作成した資料を用います。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ジャンル別研究		授業形態/必・選	講義	選択
	DTMギターⅡ 後期			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経歴10年。専門学校にて音楽を学びその後サポートギタリストを開始する。 コロナ禍を機に作詞作曲編曲、トラックメイキングに力を入れ、 現在は自身のソロプロジェクトにて活動、アーティストに楽曲提供も行なっている。					
授業概要						
昨今のポピュラー音楽にて使用されているギターの音色をどのように演奏するか、またどのようなボイシングやリズムパターンをもってして弾かれているかの分析。 それらをギターを弾いた事がない学生に対してキーボードでの打ち込みに落とし込みやすいように理論的な説明を行う。						
到達目標						
作曲する際に最初にギターを用いる、またキーボードを用いてもギターを弾く上での思考から始められる事。 ギターを作曲に用いる際のアイデア出しの精度の向上。 楽器を修練する事へのモチベーションを高めひいては音楽活動へのモチベーションの向上。						
授業計画・内容						
【後期】 1~4回目	Aマイナー(Cメジャー)スケールの習得 ・単音を用いる事によるギターのリード楽器としての側面の把握。 ・ギター特有のシグネチャーフレーズの把握。					
【後期】 5~9回目	Aマイナー(Cメジャー)スケールの習得 ・単音を用いる事によるギターのリード楽器としての側面の把握。 ・スケールからのコードのテンションの作り方の把握。					
【後期】 10~14回目	ジャンル毎によるギターの音色作成 ・エレキ、アコースティックギターの音色の特色の理解。 ・各ギターアンプ、エフェクトの差異の理解。					
【後期】 15~17回目	ジャンル毎によるギターの音色作成 ・各ギターアンプ、エフェクトの差異の理解。 ・リード用、リズム用の音色作成の習得。					
【後期】 20回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ギターという楽器を理解する事でまた違った角度でインスピレーションが降ってきます。自身に合ったスタイルの構築のヒントになるので楽しんでやっていきましょう！					
使用教科書	オリジナルで作成した資料を用います。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	イヤートレーニング		授業形態/必・選	講義	必修
	SSイヤートレーニング I			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験30年。大手ゲーム制作会社所属にてゲームBGM制作、その後ポップロックバンドのキーボーディストとしてメジャーデビュー、その後インペグ屋所属ミュージシャンとして様々なアーティストのライブやレコーディングに参加、その後2024年現在まで作家事務所に所属し、様々なアーティストに楽曲・歌詞を提供。					
授業概要						
基本的には既成の音楽を聴いてもらって、それをLogicで再現していく作業、いわゆる耳コピーを繰り返していく授業です。						
到達目標						
もともと備わっている音感のレベルが学生によってまちまちなので、ここという到達目標はなく、それぞれ個人が今よりも高いレベルの音感を身に付けられるようにサポートをしていきます。耳コピーを楽しんでいると感じてもらえれば幸いです。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	<ul style="list-style-type: none"> まずは音程による響きの違い、感じる情緒の違い等をじっくりと感じて覚えてもらう作業から始める。 ピアノを弾いて、声を出して歌ってもらったり、ピアノでコードを弾いて、コードの種類(メジャーかマイナーか、等)を考えてもらうといった、「響き」を覚える授業を行う。 					
【前期】 6～10回目	同時発音数の少ない簡単な曲(ファミコン時代のゲームBGM等)の耳コピー					
【前期】 11～15回目	<ul style="list-style-type: none"> 少し発音数の増えた簡単な曲(スーファミ時代?のゲームBGM等)の耳コピー さらに原曲音源に近づけるため、この機会にアナログシンセサイザーの音作りも教える。 					
【前期】 16～19回目	ゲーム曲以外の、発音数の少ない曲(パッパ:2声のインベンション、3声のシンフォニア等)の耳コピー					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～24回目	<ul style="list-style-type: none"> バンド系音源、ポカロ系音源など、学生たちにとって一般的であろうジャンルの曲の耳コピー 適宜、楽器ごとの発音方法なども教える。(例:ギターが構造的に同時に音程の近い音は出しにくいこと、開放弦、奏法などの知識、それらを踏まえたリアルな打ち込み方法等) 					
【後期】 25～29回目	同上 (耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定)					
【後期】 30～34回目	同上 (耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定)					
【後期】 35～38回目	同上 (耳コピーする曲の選定は、学生の理解度や雰囲気を見て選定)					
【後期】 39回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音感のある人、ない人、いろいろいらっしゃるかと思います。音感には「絶対音感」と「相対音感」の2種類があります。絶対音感を持って生まれなければならぬものですが、相対音感トレーニングによって身に付けることができます。そしてこの相対音感を身に付けるのが早ければ早いほど、後の音楽人生がイージーモードになります。ちなみに担当講師の岩見も絶対音感はなく、相対音感です。					
使用教科書	教科書は使わず、音源を用意して教材とします。YouTube等の音楽配信サイトを使うこともあります。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	DTMキーボード I		授業形態/必・選	実習	必修
	キーボード入門			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。1980年レコードデビュー。1984年より音楽学校講師に就任。 1995年よりESP学園にて講師就任 現在もキーボードプレイヤー&コンポーザーとして活動中。					
授業概要						
MIDIキーボードを使った基礎的な鍵盤での打ち込みができるようになるための授業						
到達目標						
PCへのデータ入力を鍵盤楽器を使って素早く入力出来るようになる。鍵盤プレイに慣れる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	Logic Pro Xの使い方① 鍵盤を使ってリアルタイムにて入力する。					
【前期】 7～11回目	鍵盤楽器に慣れるために、簡単な曲をプレイしデータ入力する。					
【前期】 12～16回目	コード譜克服。コードが書かれた曲譜面を入力する。(コード譜面数曲用意)					
【前期】 17～21回目	メロディ譜克服。音符が書かれた曲譜面を入力する。(メロディ譜面数曲用意)					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	Logic Pro Xの使い方② 鍵盤を使ってリアルタイム入力したデータを修正する。					
【後期】 27～30回目	より複雑なコード譜克服。コードが書かれた曲譜面を入力する。(コード譜面数曲用意)					
【後期】 31～35回目	より複雑なメロディ譜克服。音符が書かれた曲譜面を入力する。(メロディ譜面数曲用意)					
【後期】 36～39回目	Logic Pro Xの使い方③ メロディとコードが書かれた譜面をデータ入力しデータ修正する。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	データ入力を素早くするには鍵盤を使ってのリアルタイム入力が一番の方法です。 鍵盤楽器に慣れ親しんで作曲に生かしましょう。					
使用教科書	個人的に作成した譜面などを使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	コードワーク		授業形態/必・選	実習 必修	
	キーボード初級			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験43年。1981年より石川優子等のアーティストのサポートでキーボードプレイヤーを始める。1983年より企業VTR,CM系映像の音楽制作を初め、AKAI楽器のデモンストレーター活動もする。2002年よりESP学園講師就任、現在もアーティストのサポート、映像音楽制作等の活動中。					
授業概要						
クリック、バックトラックを使用してリズムトレーニング。コードワーク、バックングリフ、アドリブ向上。バンドアンサンブルでのキーボードプレイの習得。						
到達目標						
バンド活動、ライブでのキーボード演奏。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	基本的譜面の読み方、12Key scale指使いトレーニング。ダイトニックコード転回形ボイスイング、循環コードでの4分音符8分音符トレーニング					
【前期】 7～11回目	2-5のAform/Bformボイスイングトレーニング。コードの分散和音、アルペジオトレーニング、左手コード、アルペジオトレーニング。					
【前期】 12～16回目	バックトラックを使用してメロディー、ペンタトニックスケールアドリブ練習。循環コード(既存楽曲)でのコードワークトレーニング。					
【前期】 17～21回目	半音階、全音階メジャー、マイナー3種スケール解説とトレーニング。ディミニッシュコードボイスイングとスケール解説とトレーニング。マイナーペンタトニックスケール練習。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	ブルースピアノリフ、ジャズブルースボイスイングとブルーノートスケールでのアドリブトレーニング。					
【後期】 27～30回目	ネオソウル、ファンク、ポップス、ジャズ、ブルース等スタイル別弾き方アプローチとトレーニング。					
【後期】 31～35回目	2-5-1-6進行でのドリアン、オルタード、コンディミスケールを使用するトレーニング。					
【後期】 36～39回目	自分で選んだ楽曲又は用意した曲を弾く、短いフレーズの耳コピ、パート譜&マスターリズム譜面を書く練習。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	とにかく練習。音楽を集中して聴く。弾くフレーズを歌いながらキーボードを弾く。					
使用教科書	オリジナルPDF譜面使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択DAWI (前期/後期)	授業形態/必・選	実習	選択
	メロディ制作		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験4年。自身のバンド活動などを通し、イベント楽曲、アーティストへの楽曲提供、アレンジやミックスまで多岐に渡る制作を行っている。				
授業概要					
キャッチーなメロディラインを作るための手法、コードとメロディのバランスなどを考慮しながら、様々な楽器のメロディライン(歌メロ、ベースライン、ブラスソロなど)の作り方を学ぶ。					
到達目標					
キャッチーなフレージングについての理解を深める					
授業計画・内容					
【前期】 1～6回目	キャッチーなメロディとは何か?ということへの理解と実践 (使う音数を洗練させる、同じフレーズやリズムを用いるなど) 8小節で1セクション程度のフレーズを制作してみる				
【前期】 7～11回目	セクションごとに異なるフレージングで、楽曲全体のトップラインを構築することへの理解と実践 Jpopの典型的なフルコーラス (Aメロ、Bメロ、サビ、Cメロ)の構成パターンのフレーズを制作する				
【前期】 12～16回目	セクションごとに異なるフレージングで、楽曲全体のトップラインを構築することへの理解と実践 海外の楽曲の典型的なフルコーラス (ヴァース、フック、ブリッジ)などの様々な構成パターンのフレーズを制作する				
【前期】 17～21回目	バラード、ロック、ボカロ曲など、グルーブ感の異なる様々な楽曲のフレーズを制作する。				
【前期】 22回目	「前期試験」				
【後期】 23～26回目	ベースラインの作り方の理解と実践。				
【後期】 27～30回目	トップラインに対しての対旋律(サブリード)の考え方の理解と実践。				
【後期】 31～35回目	歌詞がはまった時の語感、言葉のリズムを意識したトップラインの作り方の理解と実践。				
【後期】 36～39回目	鳴っているコードに対してのトップラインの音の抜けを意識したアプローチ方法についての理解 ハモリの作り方、コーラスワークの実践				
【後期】 40回目	「後期試験」				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	メロディラインはシンプルそうに見えて奥が深く、特にトップラインのキャッチーさは楽曲の顔とも言える部分になります。いろいろな楽曲のトップラインを、授業の中で実践的に学んでいきましょう！				
使用教科書	講師オリジナルの教材を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ヴォーカルⅠ(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	選択
	ヴォーカル&ヴォイトレⅠ			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、サウンドクリエイターコース(選択)					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。					
授業概要						
ヴォイストレーニングで学んだことが実際に曲を歌う中で織り込めているかを確認し、出来ていないものの再習得のトレーニングを行い、より実践的な身体の使い方を身に付けていく。						
到達目標						
その曲のそのフレーズに必要な発声法をより確実に行うことにより、伸びやかさと力強さ、柔らかさを兼ね備えた声を駆使出来るヴォーカリストになることを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	「姿勢、呼吸の自由曲中での実践、修正、底上げ」表題の項目が、歌唱の中で正しく行えているかの確認を行い、行えていないものに関してヴォイストレーニング的メソッドを繰り返す。					
【前期】 5～8回目	「腹式の自由曲中での実践、修正、底上げ」歌唱時に腹圧が多すぎる、少なすぎるの修正を主に行う。共鳴と関連付ける必要性を理解させ、出ている声の質、発声している本人の喉の負担等の知識も併せて学ばせる。					
【前期】 9～12回目	「滑舌の自由曲中での実践、修正、底上げ」低いメロディーや柔らかい声の時の発音の弱さ、高音域や激しいオケの時のずっと強すぎる言葉の修正を主なものとする。また、フレーズ内で強弱の差を付けるコントロールも実践出来るようにする。					
【前期】 13～16回目	「共鳴の自由曲中での実践、修正、底上げ」曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。					
【前期】 17～21回目	「高音域①の自由曲中での実践、修正、底上げ」フレーズ内の高音域を発声するのに必要な身体の使い方が正しく出来ているかを確認、出来ていないところを、腹圧の度合い、喉の開き、共鳴の設定、重心の位置を主に確認、修正する。					
【前期】 22回目	前期試験					
【後期】 23～26回目	「高音域②の自由曲中での実践、修正、底上げ」上の「高音域①の自由曲中での実践、修正、底上げ」の継続。					
【後期】 27～30回目	「支えの自由曲中での実践、修正、底上げ」フレーズ内のロングトーンの安定、音の跳躍時の重心の設定及び腹式発声の継続を主に確認、修正する。					
【後期】 31～34回目	「トーンコントロールの自由曲中での実践、修正、底上げ」歌詞の世界観、曲調に必要な声のトーンの設定を、腹式の度合い、共鳴の設定などを確認して修正する。更に、フレーズ内での変化、コントロール方法も身に付ける。					
【後期】 35～38回目	「総合①」学んだこと全てを、例題曲の中で実践出来ているかを総合的に確認、修正する。					
【後期】 39回目	後期試験					
【後期】 40回目	「総合②」上の「総合①」の継続。					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	出したい声に対して、どう身体をコントロールするかによって聴こえ方、伝わり方が違います。その重要性を理解した上で、曲中でこそ様々な身体の部位の使い方より高めて、声と言葉だけでも曲の世界観が伝わる歌を歌いましょう。					
使用教科書	全コース共通の教科書を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ドラム I (前期/後期)		授業形態/必・選	実習	選択
	ドラムベーシック			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ドラムコース、サウンドクリエイターコース(選択)					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験3年 専門学校を卒業後、自身のバンドでメジャーデビュー。 現在は様々なアーティストのライブやレコーディングに参加。					
授業概要						
ドラム演奏にベースとなる基礎を学ぶ。						
到達目標						
演奏に必要な身体の使い方と奏法の向上。楽曲におけるドラムフレーズやfeelingを理解できるようにする事。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	セッティング・ドラムセットの体に合う高さを見つける フォーム修正・叩き方・鳴らし方・芯のある音の出す ストローク四種類・フル・ダウン・タップ・アップストローク習得					
【前期】 6～10回目	チェンジアップ・4分・2拍3連・3連・8分・16分音符 (5連符/6連符) tempo 60~120 8ビート・バスドラムのパターン4分音符、8分音符で tempo 60~140 オルタネートスティッキング(16分音符パターン)					
【前期】 11～16回目	シンコペーションブック P38 tempo 60~120 ・オルタネートver ・バスドラver バスドラダブル踏み方(スライド・アップダウン) 8ビートBDパターン(16分音符)					
【前期】 17～22回目 (前期試験)	シンコペーションブック P38 3連&16分verアクセント tempo 60~100 足のパターン P38通してやる(目標ノーマス) 16ビートBDパターン(16分音符)					
【後期】 23～27回目	手16分パターンにBDユニゾン(スネア・タム・シンバル) →シングルパターン・バブルパターン tempo 60~120 ダブルストローク(3連パターン・16パターン) パラディドル(ストレート・ディレイド・インワード・リバース)					
【後期】 28～32回目	6ストローク(RLRRL・RLRRL・RLRRL・RLRRL・RLRRL) パラディドル(ストレート・ディレイド・インワード・リバース) Feelについて→8分・16分の説明と応用。					
【後期】 33～36回目	シャッフルの説明と応用 ハーフタイムシャッフルの説明と応用					
【後期】 37～40回目 (後期試験)	Feelにあったフィルインの構築方法とその応用					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	ドラムの基本を身に付け、より楽しく演奏の幅を広げましょう。					
使用教科書	必要に応じて講師がプリント等を配布					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ベース I (後期/後期)	授業形態/必・選	実習	選択
	ベースベーシック I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ベースコース、サウンドクリエイターコース(選択)				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	非該当
担当講師 実務経歴	<p>実務経験3年 学生時代にESPでベースストグランプリを受賞。卒業後、レコーディングやサポート業を開始。 現在は音楽レッスンスタジオを開業し経営しつつ、様々なアーティストやゲームミュージックなどのバックバンドやレコーディングに参加し、サポートベーシストとして活動中。</p>				
授業概要					
<p>ベーシストとしての基礎を固めるために、右手左手のフォーム、連指練習、音符(休符)の長さ、ミュート、様々なジャンルに対するベースラインの構築などベーシストとして活動する上で必要な基礎知識の習得。</p>					
到達目標					
<p>基礎実技、知識の習得。 ・初見で譜面を見て、書かれている音符を正確なリズムや音程で弾ける。 ・多様な奏法に対応できる能力(オクターブ、タッチミュート、レイキング等) ・様々なジャンルの音楽に対してのベースライン構築の理解と研究</p>					
授業計画・内容					
【前期】 1～3回目	<p>基本的なフォーム、リズムパターン、基礎連指練習 ・ベース本体、右手左手の基本フォーム ・様々な音符や休符の長さの理解 ・多様な楽曲に対応するための基礎連指練習</p>				
【前期】 4～9回目	<p>様々なベースライン① ・全～8分音符(休符)まで+付点、タイ、スタッカートが使用されているフレーズ、ブルース進行の譜読みと演奏。</p>				
【前期】 10～16回目	<p>様々なベースライン② ・16分音符(休符)、シンコペーション、オクターブ、シャッフルの譜読みと演奏。 ・ハンマリングやタッチミュートのトレーニング</p>				
【前期】 17～22回目 (後期試験)	<p>様々なベースライン③ ・4ビートでの4分音符ランニングベース ・3連符ベースラインフレーズ</p>				
【後期】 23～26回目	<p>様々なベースライン④ ・ピッキングミュート、ゴーストノートを使用したフレーズの演奏 ・レゲエフィールのベースライン</p>				
【後期】 27～33回目	<p>様々なベースライン⑤ ・小節をまたぐシンコペーションや3拍フレーズでのシンコペーションのフレーズ演奏 ・16ビート1発モノのランニングベースの演奏</p>				
【後期】 33～36回目	<p>様々なベースライン⑥ ・3連符4つ割りフレーズの演奏 ・16分弦跳びアルペジオの3つ割りフレーズの演奏</p>				
【後期】 37～40回目 (後期試験)	<p>様々なベースライン⑦ ・多様な拍子(3/4,6/8,5/4,8/7)のフレーズを演奏</p>				
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>				
学生へのメッセージ	<p>バンドやお仕事をする上で、基礎的なスキルや知識は必要になっていきます。 その為に多様なリズムやジャンルを研究し自分のものにして、将来に生かしていきましょう。</p>				
使用教科書	<p>総合カリキュラム I</p>				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択エレキギター I (前期/後期)		授業形態/必・選	実習	選択
	ギターベーシック I			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	ギターコース・サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	√	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験14年 サポート・ギタリストとして活動。 その他、ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲、音楽専門学校講師など、活動は多岐に渡る。					
授業概要						
ギターを弾く上で基礎的な部分の学習。「ギターリストに必要な理論」をメインに「指板上の音の覚え方」や「音感やリズム感の向上」、「チューニングの重要性」や「譜面の読み方や学習方法」音楽、ギター未経験者からのスタートでも段階を踏んで上達していけるプログラム。						
到達目標						
ギターの基礎的な演奏技術や練習方法の習得、プロの現場で使える音楽業界の知識、譜面の読み方や音楽理論の重要性、音楽専門学校ギター専攻として必要な音楽知識の学習						
授業計画・内容						
【前期】 1～3回目	「指板上の音」の学習、コードの概念、チューニングや譜面の重要性 ・6弦/5弦/4弦の指板上の音を覚える方法 ・オープンコードの成り立ちやセーハコードへの移行方法 ・3和音(トライアド)の学習 ・チューニングの重要性、アーティスト・ミュージシャンから見た譜面の重要性					
【前期】 4～11回目	4和音(オープンコード&セーハコード)の学習&各スケール練習方法 ・3和音(トライアド)からの応用、4和音の理解と学習 ・メジャースケール key=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール key=Am(5position)の習得					
【前期】 12～22回目 (前期試験)	楽譜から読み取るリズム譜(スラッシュ記号)の演奏法 ・3和音を用いてリズム譜を演奏する技術 ・4和音を用いてリズム譜を演奏する技術(3和音含む) ・コード進行表&リズム譜を同時に理解し演奏する方法					
【後期】 23～25回目	調号(key)を理解した演奏の習得 ・前期で習得したメジャースケール、マイナースケールを用いて、色々なkeyでスケールを演奏 ・ダイアトニックコードの理解 ・メジャースケール Anykey=C(5position)の習得 ・ナチュラルマイナースケール Anykey=Am(5position)の習得					
【後期】 26～32回目	業界標準のスコアの読み方を習得 ・マスター譜面から、必要な情報を読み取り演奏できるようにする。(調号、楽典含む) ・現場に必要な音符読みトレーニング					
【後期】 33～39回目	マイナーのダイアトニック・コードにおけるファンクションの理解と習得 ・ナチュラルマイナー(エオリアンモード)の理解と習得 ・ハーモニックマイナーの理解と習得 ・メロディックマイナーの理解と習得 ※各スケールの代表的な使い方のレクチャー					
【後期】 40回目 (後期試験)	指板上の音、コード(3和音&4和音)、スケールの全把握と進級時に今後必要な知識の整理 ・ウォーミングに活用できる指板上の音の把握 ・コードの概念、応用法 ・2年次のダイアトニックコードの活用について、音楽業界へのアプローチアドバイス					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	自分はどんなギターリストになりたいのかの前に、音楽をまず理解する事。そしてギターリストにとって必要な、大事な基礎知識をしっかり習得する事により、アーティスト、ミュージシャン、作曲家等多数あるうちの将来になりたいギターリスト像に少しでも近づきましょう。					
使用教科書	学内オリジナル教材「Guitar course Basic」PDFを使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択作曲法(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	トラックメイキング			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験15年。昭和音楽大学を卒業後、映画、舞台の音楽監督、アーティストプロデュース、自身の作品のリリース等多岐にわたる活動を展開する。 トラックメイカーとしてはアーティスト提供、ゲーム、V Tuber他等の音楽を制作する。					
授業概要						
Logic Pro Xを中心とした講義を行う。様々なジャンルに対し、正しい制作知識を身につける。						
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の音楽シーンに頻繁に使われる音楽スタイルの習得。 ・ジャンルに対し正しい制作方法を身につける。 ・Logicの楽器の音色を覚える。 						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	ラジオジングル制作。短い曲の制作を通して、様々なジャンルの楽器を学ぶ。					
【前期】 7～11回目	EDM制作。少ないトラック数で効果的な音の制作を学ぶ。					
【前期】 12～16回目	lofi hiphop制作。音の劣化を効果的に行う方法を学ぶ。					
【前期】 17～21回目	vocal編集。クラスメイトの歌でピッチ、タイミングを調整する方法を学ぶ。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	Dubstep制作。Wobble Bass等をLogicのシンセサイザーで制作する方法を学ぶ。					
【後期】 27～30回目	Futurebass制作。ステップシーケンサー、Midi Effect等の技術を使った制作方法を学ぶ。					
【後期】 31～35回目	Garage musicの制作。Newjeansの曲のコピーを行い、実際に自分の作品に転換していく。					
【後期】 36～39回目	授業で行ったジャンルを選び、実際に自分の作品として制作し納品する。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	様々なジャンルの音楽制作を学び、それを通して楽しく音楽制作をしましょう。					
使用教科書	学内作成オリジナル教材の使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アレンジI/グループメイキング		授業形態/必・選	実習 必修	
	ビートメイキング			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験43年。 1981年より石川優子等のアーティストのサポートでキーボードプレイヤーを始める。1983年より企業VTR,CM系映像の音楽制作を初め、AKAI楽器のデモンストレーター活動もする。2002年よりESP学園講師就任、現在もアーティストのサポート、映像音楽制作等の活動中。</p>					
授業概要						
4拍子の1234感覚、身体を使ってリズムの表現を習得。リズム譜の読み書きをできるようにする。4リズムのベースパターン、リフ、ビートパターンのアイデアを増やす。						
到達目標						
楽曲のリズムアレンジのアプローチの向上、ポリリズム等の研究。パート譜、出来たらスコア譜を書けるように。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	音符の種類の説明とエクササイズ。オンビート、オフビート、バックビートの説明。両手で4分音符、両手で8分音符、三連符を叩くトレーニング。					
【前期】 7～11回目	Dr, Bass, Key, Gt, のリズム的絡みの関係の説明。Ex1`Ex3, (2-5等進行)のスコア譜面で色々なリズムパターンをlogicで入力。					
【前期】 12～16回目	Ex4`Ex6, エクササイズでペンタトニックスケール、アプローチノートを使ったベースフレーズでのエクササイズ。					
【前期】 17～21回目	既存楽曲のリズムパターン再現、譜面読み書きのトレーニング。2ビート～16ビート、三連系等のリズムパターン打ち込み。休符シンクペーションを含んだ2小節パターンを読むエクササイズ。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 23～26回目	リズム伝言ゲームトレーニングでヒアリング、ボイスパーカッション、譜面を書く練習。Ex7`Ex8, リズムパターン入力。					
【後期】 27～30回目	4小節～16小節の枠の感覚トレーニング。Ex9`EX10, リズムパターン入力。					
【後期】 31～35回目	循環コードでDr, Bass, Key, のリズムパターン、リフをアレンジする作業。リズム譜面を書く。					
【後期】 36～39回目	メトロノームの使い方、グループ解説、ポリリズムの解説とエクササイズ。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	楽曲で大切なのはリズム、特にベースパターン。リズムをボイスパーカッションのように歌う。					
使用教科書	自分が作成オリジナルPDF譜面教材を使用。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アレンジ1 / グルーヴメイキング		授業形態/必・選	実習	必修
		アンサンブル I		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験14年 自身の活動として楽曲配信やソロアルバムを発売、Youtubeにおいてはレッスン動画や業界の知識を配信等、積極的に活動。またエンジニアとしても活動しておりミックスやマスタリング、そして作曲等も全て自主でこなし、楽曲提供や数々の著名なヴォーカリストと共演。					
授業概要						
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル=ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に連したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。						
到達目標						
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を通じ、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～16回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 各パートのセッティング方法 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> 既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート→課題曲②アップテンポ8ビート→課題曲③ミディアムテンポ16ビート→課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作成。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 スムーズな転換の手順を確認。 音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。 					
【前期】 17～19回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> セット図の書き方を学び、作成する。 アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 					
【前期】 20～22回目 (前期試験)	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。 					
【後期】 23～37回目	<p>アンサンブルとは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 各パートのセッティング方法 読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 <p>課題曲①～④</p> <ul style="list-style-type: none"> 既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート→課題曲②アップテンポ8ビート→課題曲③ミディアムテンポ16ビート→課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作成。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 聞き手を意識したトータルプロデュース。 <p>アンサンブルフェスティバルへ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 スムーズな転換の手順を確認。 音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。 					
【後期】 36～38回目	<p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成</p> <ul style="list-style-type: none"> セット図の書き方を学び、作成する。 アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 					
【後期】 39～40回目 (後期試験)	<p>半期のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。 					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況、内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー…エフェクターは自身の物を持ち込みましょう! ※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 コミュニケーションが音楽業界では第一、その大事さと、現代における人との関わり方や他人への興味を養う。 講師に頼るばかりではなく、学生間で情報を伝達するなどアンサンブルメンバーの一人としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう!					
使用教科書	学校内作成のマスター譜や譜面					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択作曲法(前期/後期)		授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルフォロー			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験17年 2006年にTV番組テーマ曲でメジャーデビュー。国外、国内の多くの有名アーティストと共演。2020年ドラマ挿入歌など多くのタイアップ曲を集めたソロアルバムをリリース。現在は様々な媒体で活動すると共に、自身の経験を活かした育成指導を行っている。</p>					
授業概要						
<p>「アンサンブルⅠ」を受講する歌手の待機学生を対象とし、課題曲をバンドで歌える状態まで仕上げる。 バンドで歌う際に必要な要素やコーラスワークを学ぶ。 楽器系と音を合わせる為の基盤作り及び合奏を想定したスキルアップ。</p>						
到達目標						
<p>バンドで歌う為に必要な事を理解し、最低限の準備が当たり前になるようになる。 迅速に曲を覚えて楽曲毎のポイントを抑え、バンドの中で歌えるようになる。</p>						
授業計画・内容						
【前期】 1～19回目	<p>「アンサンブルⅠ」課題曲①～④の仕込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ギャなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー</p>					
【前期】 20～22回目	<p>半期のまとめ 「前期試験」</p>					
【後期】 23～39回目	<p>「アンサンブルⅠ」課題曲⑤～⑧の仕込み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞にリハーサルマークやイントロ・アウトロ・間奏の小節数(アレンジの進捗次第で都度修正)コードなどの情報を書き込み、譜面と紐つける。 ・ウォーミングアップ、声の立ち上げ ・課題曲のメロディー(音程・リズム)の確認 ・パフォーマンスに直結するリズムの取り方を練習し、定着させる。 ・原曲に用いられているテクニックの確認 ・楽曲や個々の素質と技量に適した発声の確認。 ・コーラスラインを確認し、同じ課題曲に取り組む者同士でメインメロディーとコーラス(ユニゾン、上ハモ、下ハモ、ウーワー、追っかけ、ギャなど)を合唱。各回でパートを交代して歌う。 ・歌う箇所の振り分け(例:1コーラス目とラストサビの前半メイン担当 など)やコーラスの担当パートを確定。 ・歌詞や譜面を見ずに歌う練習 <p>アンサンブルフェスティバルの事前資料作成をフォロー</p>					
【後期】 40回目	<p>半期のまとめ 「後期試験」</p>					
評価方法	<p>学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)</p>					
学生へのメッセージ	<p>「アンサンブルⅠ」授業では歌唱指導をメインに行いません(合わせる事に注力する)ので、課題曲の歌唱における技術的な事は「アンサンブルフォロー」内で質問や反復練習をし、解決してください。</p>					
使用教科書	<p>無し</p>					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	課題曲制作 I		授業形態/必・選	実習	必修
	課題曲制作			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。1980年レコードデビュー。1984年より音楽学校講師に就任。 1995年よりESP学園にて講師就任 現在もキーボードプレイヤー&コンポーザーとして活動中。					
授業概要						
講師から与えられた映像や画像のイメージから楽曲を制作する。できる人はリリックビデオやMV制作にも挑戦する。 合成音声も授業内で取り扱う。						
到達目標						
DAWソフト、映像編集ソフト、などを使いこなし、 与えられた課題を期限内に完成させるプロダクト能力を身につける。合成音声ソフトにも慣れ親しむ事を目標とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	Logic Pro Xに慣れてもらう実技。 リアルタイム入力でコードを入力。メロディー制作。リズムトラック制作。					
【前期】 6～10回目	出来た作品に自由アレンジを加える。 作品提出と試聴会を実施。					
【前期】 11～15回目	合成音声ソフトなどの使い方などを説明。 合成音声ソフトなどを使いボーカルのメロを歌わせてみる。 ポカロ課題提案。試聴会実施。					
【前期】 16～21回目	題材として用意した画像に音楽をつける課題を提示する。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 22～27回目	題材として用意した映像に音楽をつける課題を提示する ①					
【後期】 28～32回目	引き続き、映像に音楽をつける課題を提示する ②					
【後期】 33～35回目	題材として用意した映像に音楽をつける課題を提示する ③ 映像編集も手掛けてみる。					
【後期】 36～37回目	まとめ。1年間の総集編的な課題を提示、試聴会を行う。					
【後期】 38回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	テーマに沿った楽曲制作をすることで色々なタイプの曲を制作してみてください。 DAWソフトに慣れることも目標です。					
使用教科書	個人的に用意した写真、VTRなどの素材。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	DAW基礎		授業形態/必・選	講義 必修	
	DAW基礎			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	<p>実務経験18年高校卒業後に音楽系専門学校に進学。卒業後はサックス奏者として、ジャズを中心にロックやポップス、舞台や映画等で演奏。</p> <p>その後DTMを始め、作曲家やミキシングエンジニアとして活動の場を広げ、様々なアーティストや企画に携わる。</p> <p>現在、自身のバンドやサポート、イベントの企画主催等の活動をしている。</p>					
授業概要						
<p>現在の音楽制作において最も必要とされている「DAW (Logic)」を使えるように学習。</p> <p>Macの使い方も併せてコンピュータの操作方法を覚え、様々な用途でMacを使用できるようにする。</p> <p>フォルダの作成やショートカットの使用、DTMの技術を総合的に学習する。</p>						
到達目標						
<p>Macにて、データの作成やデータのやりとり、MacとiPhoneの連携の仕方等を学習し快適に音楽活動ができるようになる。</p> <p>「DAW (Logic)」を使用し、MIDIの取り扱いやレコーディングのやり方等を学習し、自身で楽曲制作ができるようになる。</p>						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	[Macの使い方] 電源の入れ方、文字の入れ方、フォルダの作り方、ショートカット等のMacの基本的な使い方を学習。					
【前期】 6～10回目	[Logicの使い方基礎 1] Logicの基本操作、ショートカット等の基礎知識を学習。 MIDIの知識と打ち込み方法を学習。					
【前期】 11～15回目	[Logicの使い方基礎 2] トラックのグループのまとめ方や、プラグインの種類や設定方法を学習。 バウンスの種類や種類を学習。					
【前期】 16～21回目	[Logicの使い方基礎 3] 実際の作曲でのMIDI打ち込みのやり方を学習。 実践のやり方を学び、自作曲の作曲方法に慣れていく。					
【前期】 22回目	「前期試験」					
【後期】 22～27回目	[Logicの使い方応用 1] エフェクトの使い方や、エディットの方法を学習。 ヴォーカルのピッチ修正等の実践的な知識を高める。					
【後期】 28～32回目	[Logicの使い方応用 2] ミックスの基礎知識を学習。 音量調整、パン、トラックのまとめ方等のファイルの使い方を学習。					
【後期】 33～36回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、自作曲のクオリティをあげるような学習。					
【後期】 37～38回目	[Logicの使い方応用 4] 2年次のために、ミックスに使う様々なプラグインを知る。 どのようなことをすると音が良くなっていくかを学習。					
【後期】 39回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	<p>コンピュータを使った作曲は今では主流になっています。</p> <p>使うことに不安がある学生もいるかもしれませんが、</p> <p>ゆっくり学習していけば誰でも使えるようになるのでゆっくり学んでいきましょう。</p> <p>コツを掴んでいけるようわかりやすく解説していきますので、一緒に頑張ってください。</p>					
使用教科書	その都度講師が資料を用意し、学生に配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	スコアライティング		授業形態/必・選	実習 必修	
	SSスコアライティング			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験12年。Logic proXをベースにKontakt、Waves、Serum等のプラグインを用いたトラックメイキングと編曲、作詞、歌とバイオリンのセルフレコーディングを行い楽曲制作をしている。 自身での活動の他、ボーカリストへの楽曲提供、ゲーム音楽でのヴァイオリン演奏、ライブでのサポートピアニストなどを行っている。					
授業概要						
楽譜の基本的な書き方を学びながら、聴音の訓練課題をこなすことで譜面の読み書きを行う。						
到達目標						
自身の楽曲のマスター譜をかけること オーケストラのスコアを読めるスキルの習得までを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	音部記号、拍子記号、小説線などの最も基礎的な譜面の読み方、書き方の説明。 四分音符、四分休符、符点のリズムまでの聴音。					
【前期】 6～10回目	シンコペーション、16分音符までの聴音。					
【前期】 11～15回目	2声課題の聞き取りと、16分音符の符点までの聴音。					
【前期】 16～19回目	16分音符のシンコペーション、小説線を跨ぐスラーのメロディ聴音					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～25回目	3声課題の聞き取りと、既存楽曲のメロディ聴音。					
【後期】 26～30回目	コードの聞き取り、マスター譜を書くための記譜の基礎知識 (コードの書き方、リズムックスラッシュ、構成の解釈など)					
【後期】 31～35回目	自作曲のマスター譜を書くこと、および 既存曲を耳コピし、マスター譜に起こすトレーニング					
【後期】 36～37回目	オーケストレーションにおける譜面知識全般 (ハ音記号、移調楽器の読み取り、特殊記号など)					
【後期】 38回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	譜面を読み書きできるようになることで、自分の曲を誰かに演奏してもらおう場面や、楽曲アナライズに有効に役立てることができます。一人一人のペースに合わせた早さで進めていくので、コツコツ頑張ってみましょう！					
使用教科書	講師のオリジナル教材を使用					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ミュージックセオリー I		授業形態/必・選	講義	必修
	音楽理論 I 入門			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドクリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験10年。専門学校在籍時にロックバンドキーボーディストとしてメジャーデビュー。脱退後は様々な現場でサポートキーボーディスト、マネージャー、アレンジャーとして活動。					
授業概要						
音楽制作に必要な最低限の知識を習得。 音部記号の書き方など、初歩的な部分から丁寧に学習していく。						
到達目標						
ダイアトニックコードを使用したコード進行作成から簡単な応用(セカンダリドミナント等)までを学習し、楽曲制作に活かせるように学習。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	・基礎知識 五線、音部記号、音符の種類、音符の長さ、音の長さなど 小学校～高校の音楽で学習した内容を再度丁寧に復習。					
【前期】 6～10回目	・音程 2音間の音程を理解する。(6～8週はドを基準としたインターバル) (長・短・完全音程)					
【前期】 11～15回目	・音階 様々なキーの長音階、自然短音階を正確に答えられるように学習する。 (15週目はペンタトニックなどの説明)					
【前期】 16～19回目	・調号とキー 音階をより簡単に考えられるよう、調号とキーについての学習。 (17回目以降余裕があれば平行調についての説明)					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～25回目	・コード入門 3和音についての学習。コードの仕組みや構成音を理解する。 (メジャーコード・マイナーコードの構成音、コードネームの表記の仕方) ディミニッシュ・サスフォー・オーギュメントなど特殊な構成のコードの説明。					
【後期】 26～30回目	・コード応用 4和音(セブンス)の構成音を理解する。 メジャーセブンス・ドミナントセブンスの違いを説明、繰り返し練習問題で確認。					
【後期】 31～35回目	・ダイアトニックコード 楽曲制作に必要なダイアトニックコードを学習する。 コードの構成音・コードネーム表記・ディグリー表記をしっかりと理解する。 (調号とキーの復習も兼ねて様々なキーのダイアトニックコードを書き出せるようにする)					
【後期】 36～39回目	・ファンクション入門とセカンダリドミナント 簡単なファンクションについての説明の後、コード進行のテンプレの紹介とコードの連結、 ドミナントモーション、セカンダリドミナントの使い方を学習する。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	苦手な人が多い音楽理論ですが、入門編ではなるべく各々の理解度に合わせてゆっくり進んでいきます。慌てず、しっかり理解して素敵な曲を生み出せるように頑張りましょう。					
使用教科書	必要に応じて講師側で作成					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ミュージックセオリー I		授業形態/必・選	講義	必修
	音楽理論 I 初級			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	サウンドリエイターコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験21年。キーボーディストとして数々のバンド活動を経た後、様々なアーティストのライブサポート、レコーディング、楽曲制作を行う。2019年には自身のグループでメジャーデビュー。2023年よりESP学園にて講師就任。					
授業概要						
音楽制作に必要な基本的かつ一部応用的な音楽理論を習得。コードワークやスケールなどを初歩的な部分から丁寧に学習していく。						
到達目標						
ダイアトニックスケール、ダイアトニックコードの理解から、セカンダリードミナントやマイナー借用などポップスで一般的に使用される主要なノンダイアトニックコードまでを総合的に理解し、自身の音楽制作で活用できるようになる。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	五線、音部記号、音符の種類や長さ、音程、調号など入門的な内容把握の確認。各キーのメジャースケール、ナチュラルマイナースケールの理解と暗記。					
【前期】 6～10回目	コードの仕組みや構成音を理解する。トライアド、テトラッド(セブンス)から、その他sus4、6、dim、aug、b5系など特殊構成和音についての理解と暗記。転回形やオンコードのボイスン把握。					
【前期】 11～15回目	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールの理解。メジャーダイアトニックコードと3種のマイナーダイアトニックコードの理解。各ダイアトニックコードの					
【前期】 16～19回目	ダイアトニックコードを活用した出現頻度の高いコード進行やケーデンスの説明と楽曲実用例の解説。ドミナントモーションの理解。ペンタトニックスケール、ブルーノートの解説とフレーズ作成の実践。					
【前期】 20回目	「前期試験」					
【後期】 21～25回目	テンションノートの種類と位置の理解と暗記、テンションコードのボイスン把握。各ダイアトニックコードのディグリーにおける使用可能テンションの理解と実用例の解説。					
【後期】 26～30回目	セカンダリードミナントの理解と楽曲実用例の解説。裏コードの理解とそれを含めたセカンダリードミナントの活用実践。					
【後期】 31～35回目	マイナー借用和音やその他ポップスにおける主要なノンダイアトニックコードの理解と楽曲実用例の解説。					
【後期】 36～39回目	ノンダイアトニックコードを含む出現頻度の高いコード進行やケーデンスの説明と楽曲実用例の解説。ここまで学んできたことを活用してメロディへのコード進行付けの実践。					
【後期】 40回目	「後期試験」					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	音楽理論とは楽曲制作という目的に辿り着くための道標のようなもの。詳細な地図や複数の移動手段を把握しているほど早く正確に目的地に辿り着けるように、音楽理論を修得することで自分の思い描く楽曲や演奏イメージを早く正確に具現化できるようになります。一緒に楽しく学んで修得し、楽曲制作や演奏に活用していきましょう。					
使用教科書	必要に応じて講師側で資料を作成、配布。					

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	分野別講座		授業形態 / 必・選	講義	必修
	分野別講座			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数	5単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴25年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。					
授業概要						
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。						
到達目標						
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。						

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～8回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 9～15回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 16～19回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 20～23回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 24～28回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 29～32回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 33～38回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	レポート提出状況・内容によって評価
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味が無い、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせて、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
	アーティスト実地演習 I		年次	1年次	
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	7回(28単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目	コースイベント
7回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布